

# 現れています

「混ぜればごみ分ければ資源」を合言葉にスタートした資源ごみ分別収集事業は、平成4年度の宝地区を皮切りに平成5年度には市内全地区で実施されるようになりました。

その結果、平成5年度においては総トン数で500トン（うちビン類96,394本）もの資源ごみが収集され、ごみ減量化・再資源化（リサイクル）を行うことができました。

また、その見返りとして1,616,111円の売却益を得ることが出来ました。

この売却金は、全額を各地区の美化推進協議会を通じて小・中学校などに配分され活動資金として有効に使われることとなります。

## リサイクルは

### 豊かな自然をまもる合言葉

豊かな自然の恵み。地球には様々な資源が満ちあふれています。しかし、こうした資源も無尽蔵ではありません。例えば、わたしたちのまわりの緑。文明が進めば進むほど、この緑は姿を消していきます。でも、緑の木々もリサイクルを推進していくことによって守ることができるのです。

紙は文化のバロメーターといわれています。職場で学校で、わたしたちは莫大な量の紙を消費しています。紙の原料は自然の恵みを受けて何年もかかって育ってきた木です。古新聞などの古紙一トンは直径一四センチ、高さ八メートルの立ち木二〇本分に相当します。そのうえ、古紙を利用することで、製紙する時のエネルギーを



三分の二もセーブすることができるのです。

ちなみに、昨年六月から、分別収集で集められた古新聞、古雑誌などの古紙の量は、全地区合わせて四二二トンに上ります。単純計算して、八二四〇本の木が切られずに済んだこととなります。このように、皆さんのリサイクル活動は、何千、何万という数の木々を守ることになるわけです。

## ゴミ減量・宝地区の歩み

### 宝地区ゴミ減量化対策推進委員会

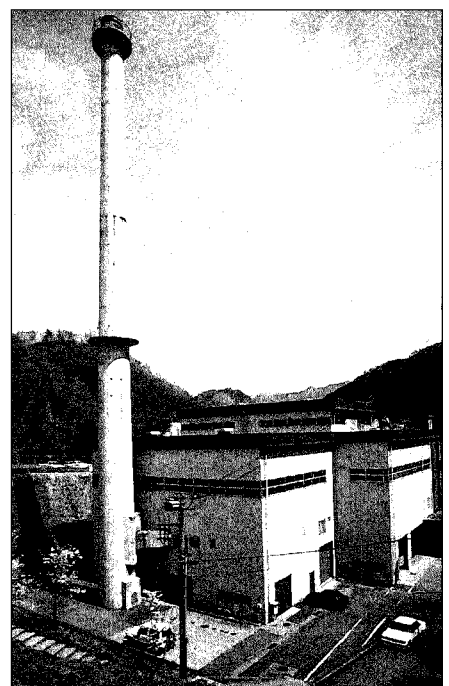
会長 小林建二

「混ぜればゴミ、分ければ資源」というわたしたちの合言葉は、宝地区がゴミ減量対策で市のモデルに指定された際、コミュニティセンター所長の案内で見た沼津市の収集車に横書きされていたものです。自然に無理なくやれる方式でなければ永い将来続けられないし、その上減量効果の高い方式を提案しなければならぬと考えま

した。その結果、生ゴミ処理器の利用率を上げること、廃品分別収集の二点に絞ることとし、また、対策委員会を自治会、老人クラブ、婦人会、小中学校PTA、育成会で構成したので、早速婦人会には生ゴミ処理器の拡販を頼みました。現在六七戸中四六％の家庭で利用されています。この数字は利用可能な菜園や堆肥場などのある殆どの家庭で使ってくれていると思われものです。これによる生ゴミ排出の減量は集計できませんが、小さい焼却炉を持つ家

では不燃ゴミ以外は出さずに済んでいるので、地区全体では相当なものになると考えます。

分別収集については、今、市内全域に行われている方式に落ち着きました。二ヵ月毎に自治会によって収集日と担当団体が連絡されること、収集場所を県道脇とすること、小中学校がやっていた廃品回収を合流させること、売却益は地域の子どものためにすべて小中学校に還元されることなどが骨組みですが、十一回実施した結果、道路使用上の苦情も無く、以前は廃品回収に一日かかったというPTAの仕事も、当番の日の八時前後の二十分位で終わると好評です。還元金も平成四年度は二十三万七千円を超えました。地区の皆さんが排出についてのお願いを良く守ってくださると、回収業者の方たちがきちんとした仕事をされるので、来年度からは回収日の担当団体の作業もなくせると



毎日たくさんのごみが処理されています。  
— 大月・都留広域事務組合 —

思っています。同じことをするならばできるだけ少ない労力だと思います。

町中、國中のゴミを分別するとなると大きい話になりますが、ひとりひとりが、新聞と広告を分ける、アルミ缶だけ出す、十文字に紐をかけるといった約束を守るだけで済むことです。このちょっとした心使いが大げさに言えば人類の未来をも決める環境維持への最も有効な力になるのです。さらにゴミそのものを減らすためにもっと物を大切にすべきだと思えます。永く使える物は必ず良いものです。デザイン、原材料、工作などのすべての面で何十年という寿命を持っています。こういう物を使って生活する文化が定着する社会は労働時間の短縮も可能になるはずです。

おわりに、市の全域にわたってゴミの分別収集を始める基礎資料を提供できたことは、何と